

ロタウイルス感染症

ロタウイルスは、乳幼児の重症急性胃腸炎の主要な原因病原体です。
生後6か月から2歳をピークに、5歳までにほぼすべての児がロタウイルスに感染し、胃腸炎を
発症するとされています。春(3~5月)にピークを迎えます。



潜伏期間

通常2日間程度



感染させるおそれのある期間

発症2日前~発症後10日後まで

※ウイルスは便中に3週間以上排泄されることもあります。



感染経路

・経口(糞口)感染

※ロタウイルスは感染力が極めて高く、ウイルス粒子10~100個で感染が成立すると
されています。

※汚染された水や食物などを触った手からウイルスが口に入って感染が成立する可能
性もあります。



症状

症状がある期間 : 通常3~7日間(最長14日間)

□主症状 : 下痢(血便、粘血便は伴わない)、嘔気、嘔吐、発熱、腹痛

※乳幼児は、下痢便が白くなることがあります。

※脱水、まれにけいれん、脳症などを合併することがあります。



治療法

対症療法(下痢、脱水、嘔吐に対する点滴、経口補液、整腸剤の投与など)



予防法

- ・手洗い(流水と石けんで十分に行う)の徹底
- ・予防接種
- ・オムツの適切な処理
- ・汚染された衣類等の塩素系消毒薬(次亜塩素酸ナトリウム)などによる消毒